

事業群評価調査(平成29年度実施)

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	環境部地域環境課
施策名	(5) 良好で快適な環境づくりの推進	課(室)長名	吉原 直樹
事業群名	大村湾・諫早湾干拓調整池の水質改善	事業群関係課(室)	諫早湾干拓課、水環境対策課、環境保健研究センター

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	環境部地域環境課
施策名	(7) 人と自然が共生する地域づくり	課(室)長名	吉原 直樹
事業群名	大村湾周辺地域の里海づくり	事業群関係課(室)	自然環境課

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)</p> <p>9-(5)- 閉鎖性の強い海域である大村湾の環境保全と水産資源の回復を図るため、下水道施設の高度処理化や貧酸素水塊 対策に取り組みます。また、諫早湾干拓調整池の水質改善のため、流入負荷削減対策など、国、県、市の関係機関で連携して取り組みます。</p> <p>9-(7)- 変化に富んだ独特な景観を持つ、日本有数の閉鎖性海域である大村湾の魅力を活かすため、多様な生物が数多く生息することができる豊かな海づくりを進めるとともに、海の恵みを持続的に活用できる地域づくりに取り組みます。</p> <p>貧酸素水塊:主として夏場に海底部で発生する酸素濃度が極端に低い水の塊</p>						<p>(取組項目)</p> <ul style="list-style-type: none">)貧酸素水塊対策技術の実用化に向けた取組(事業群9-(5)-))生物を活用した大村湾や諫早湾干拓調整池の水質浄化の取組(事業群9-(5)- 、事業群9-(7)-))大村湾流域別下水道整備総合計画に基づく下水道施設の高度処理化の推進(事業群9-(5)-))希少野生動植物種保存地域の指定(事業群9-(7)-))再生砂による浅場づくり(事業群9-(7)-) 					
<p>指 標</p>						<p>(進捗状況の分析)</p>					
事業群	9-(5)- 大村湾の水質 (COD 75%値平均)	2.0mg/L	2.0mg/L	2.1mg/L	95%	<p>9-(5)- 大村湾及び諫早湾干拓調整池の水質は目標値に達していないが、地域住民や市町と連携して、生活排水対策や下水道の整備、工場排水対策等、流域から流入する汚濁物質を抑制したことにより、いずれの指標も平成27年度より改善した。 COD:Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略。海域、湖沼の水の有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す指標</p>					
	9-(5)- 諫早湾干拓調整池の水質 (COD 75%値平均)	5.0mg/L	5.0mg/L	7.4mg/L	68%						
	9-(7)- 大村湾沿岸に再生砂で造成する浅場に生息が見込まれる二枚貝の個体数	160万個体	-	-	-						
その他						<p>9-(7)- 大村市森園町地先に再生砂による浅場を造成した。二枚貝の育成にはしばらく時間がかかるため成果の検証には時間が必要だが、現在、浅場には二枚貝の幼生が育成し、また、鳥やエイ等による捕食の跡が見られるなど生物の生息の場となりつつある。</p>					

2. 28年度取組実績(H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				28年度事業の成果等	中核事業		
			H28実績	一般財源	人件費(参考)		事業対象	指標	主な目標	H28目標			H28実績	達成率
			H29計画	一般財源	人件費(参考)					H29目標				
取組項目	大村湾環境総合対策事業 地域環境課	H28-30	43,613	8,171	8,042	大村湾流域 大村湾の水質改善及び環境保全等を推進するため、貧酸素水塊対策としてのエアレーション技術の効果的な運用の調査など、総合的な対策を検討実施した。	活動指標 散気実施実績(日)	100	100	100	100%	散気地点から100m離れた地点での溶存酸素濃度が上昇していること、底質の栄養塩が表層付近に運ばれ赤潮の要因ともなるプランクトンの増殖を抑制することが確認された。		
			37,966	12,966	2,422				1.0	1.2				120%

3.実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>)貧酸素水塊対策技術の実用化に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアレーション技術の実証事業については、国の研究事業で総括評価を実施し一定の効果は認められたものの、今後、費用対効果等の検討が必要とされた。 ・今後、水産資源回復のため大村湾湾中央部において公共事業(海底耕うん等)が実施される予定であり、底質調査等を共同で行うなど貧酸素水塊対策としての可能性を検討する。
<p>)生物を活用した大村湾や諫早湾干拓調整池の水質浄化の取組</p> <p>(大村湾関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生砂に3,000m³で浅場造成を行い、県内で発生した産業廃棄物の利活用の一つのモデルとなった。 ・造成した浅場は、鳥やエイの捕食跡や二枚貝の幼生の生育がみられるなど生物の生息の場となりつつある。 ・水質改善や水産資源回復への効果は気象等の外的要因にも左右され、また、住民の関心度など長期的な検証が必要で、評価には時間がかかる。 ・浅場は水質浄化に加え、住民の親水性向上の場として活用が期待され、住民(家族連れ、学生)などの利用が見られている。 ・大村湾の浮遊ゴミ清掃を継続して行うことにより県民の環境保全意識を保持する必要がある。 <p>(諫早湾干拓調整池関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二枚貝の生息可能性調査を諫早湾干拓調整池流域の用水路において実施し、二枚貝の生育が可能な環境であることが確認された。 ・大雨時の水流や鳥類魚類による捕食などの対策が必要である。 ・中央干陸地におけるヨシの維持管理手法等に関する調査として、ヨシを有機質素材として活用した堆肥製造試験を行った結果、十分に利用可能な効果があった。 ・中央干陸地のヨシの活用においては、ヨシの生育への影響やヨシ原に生息する希少な鳥類など生態系の配慮に関する調査が必要であったことから、既存資料・現地の調査及び動植物の研究者、地元の保護団体等からの配慮事項等の意見を集積した。
<p>)下水道施設の高度処理化の推進</p> <p>富栄養化の要因である窒素・リンを抑制するため、大村湾南部流域下水道の下水処理場で高度処理化を推進しており、平成29年度中に工事に着手し、平成31年度の高度処理化の一部運転開始を目指す。</p>
<p>)希少野生動植物種保存地域の指定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希少野生動植物種保存地域の指定などによる長崎県を特徴付ける動植物種や生態系の保全に関しては、希少種の捕獲採取の規制を充実し保護を進めており、今後も生息生育環境の保全を図る必要がある。
<p>)再生砂による浅場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生砂に関しては3,000m³を確保し浅場の造成を行った。県内で発生した産業廃棄物の利活用の一つのモデルとなった。 ・造成した浅場は、鳥やエイの捕食跡や二枚貝の幼生の生育がみられるなど生物の生息の場となりつつある。水質改善や水産資源回復への効果は気象等の外的要因にも左右され、また、住民の関心度など長期的な検証が必要で、評価には時間がかかる。 ・浅場は水質浄化に加え、住民の親水性向上の場として活用が期待されることから、関係市町と協力して浅場の利活用について検討し、維持管理の調整が必要である。

4.29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	大村湾環境総合対策事業	水産資源回復のため大村湾湾中央部において公共事業(海底耕運)が実施され、底質や水質の改善効果も期待されることから、環境保全対策としての検証を協力して行い、貧酸素水塊対策としての可能性を検討する。	、	貧酸素水塊対策に関して、適用可能な他の方策について関係機関と連携して検討していく。	改善

取組項目	諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業	諫早湾干拓調整池は、いまだ環境基準を超過しており水質改善には至っていない状況にあることから、効果的な調整池の水質改善対策について関係機関と協議を進めていく必要がある。併せて、行動計画の見直し作業を行っていく。	、	次期行動計画策定のための幹事会に九州農政局の参加協力が得られる見込みとなったことから、関係機関と連携して次期行動計画を策定する。 水質改善のための手法の検討については、中央干陸地のヨシの刈り取りや利活用など積極的に提案し、引き続き国と連携して干拓調整池の水質改善策に取り組む。	改善
取組項目	「いさかん」水辺の保全推進事業	・既存資料・現地の調査及び動植物の研究者、地元の保護団体等からの配慮事項等意見を集積しており、ヨシの適正管理における刈り取り後のヨシの生育や希少な鳥類など生態系の状況の調査を行う必要がある。 ・中央干陸地の活用における役割・協力体制を構築する。	、	次期行動計画の推進を図るため、中央干陸地のヨシの適正管理・活用等の事業について、国や関係機関と連携して取り組む。	改善
取組項目	(特)大村湾南部流域下水道事業(公共)	-	-	平成31年度に高度処理化の一部供用開始を目指し、建設工事に着手する。	現状維持
取組項目	希少野生動植物保全事業費	-	-	本県の自然環境を代表する希少な生物種等は、外圧による生息生育環境の悪化や環境変化に影響を受けていることから、専門家の現地調査等による状況把握を継続する必要がある。	現状維持
取組項目	大村湾環境総合対策事業	造成した大村市の浅場については、鳥やエイの捕食跡や二枚貝の幼生の生育がみられるなど生物の生息の場となりつつあるが、他のポテンシャルが高いと判定された地域での効果についても検証する必要がある、新たな実証地を公募した。	、	造成した浅場については、引き続き検証作業を行うとともに、工法や再生砂等の資材経費削減等を検討するとともに、応募があった時津町に浅場を造成し、その効果の検証には時間を要することから、町や関係団体等と協力して、その効果や利活用について検討する。	改善